

観光振興対策特別委員会記録

開催日時 平成30年6月15日(金) 13:05～14:18

開催場所 第1委員会室

出席委員 8名

和田 恵治 委員長

亀田 忠彦 副委員長

池田 慎久 委員

松本 宗弘 委員

中川 崇 委員

田尻 匠 委員

乾 浩之 委員

今井 光子 委員

欠席委員 なし

出席理事者 折原 観光局長

増田 まちづくり推進局長 ほか、関係職員

傍聴者 なし

議 事

(1) 6月定例県議会提出予定議案について

(2) その他

<会議の経過>

○和田委員長 ただいまの説明、報告またはその他の事項も含めまして、質問があればご発言願います。

○今井委員 お尋ねさせていただきます。

委員会資料8ページの奈良公園施設魅力向上事業に奈良市の負担分が出ていますが、具体的にはどのような事業かお尋ねします。

○上平奈良公園室長 具体的に言いますと、鹿の保護育成事業に係るもので、県、市、春日大社が3対2対1の割合でお互いお金を出すということで協定書も結んでいます。以上です。

○今井委員 わかりました。

今、鹿の話が出ましたので、鹿の話をさせていただきますけれども、先日テレビで鹿が

ならまちに50頭ぐらい群れをつくってずっと走り抜けていたという、びっくりするような映像が出ていました。

その理由として、専門の先生が言われていたのは、奈良女子大学の芝のほうがおいしいということで、奈良公園から鹿がそちらに移ったということです。最近気になっていますが、県のイベントをするのに、奈良公園の芝の上にいろいろなテントを建てるのが結構あります。先日は鉄板も敷いてテントを置いていたということもあり、その後、芝生がなくて白くなっている状況があります。やはり奈良公園というのは鹿がいてくれてこそ奈良公園だと思いますので、奈良公園の芝をもっと大事にするべきではないのかと思っていますけれども、県のお考えがありましたらお尋ねしたいと思います。

○上平奈良公園室長 イベント等が、芝に悪影響を与えることについてお答えします。

奈良公園の芝生に特に影響を与えるようなイベントは3つあります。ことし5月から6月に開催されたオクトーバーフェストが10日間、ムジークプラッツならが4日間、9月に予定しているシェフェスタが10日間あります。イベントの許可に当たっては、芝生の損傷を最小限に抑えるよう、今井委員がおっしゃった鉄板と土の間にブルーシートを敷き、さらに鉄板を乗せて、その上にまたシートを敷く等、熱等も伝わりにくい形で許可を与えるなど、芝生の保全対策はできる限り行っているところです。これらのイベント直後は人の踏圧等による芝の傷みや、日光が遮断されることによって変色等が見られますが、どのイベントでも終了後2カ月ほどで、ほぼイベント前の状態に回復しており、鹿の生活環境を乱すほどのものではないと考えています。

これらのイベントについては、奈良公園の定着イベントとして認知されており、毎年開催を楽しみにされているファンもたくさんおられますので、開催についてはご理解いただきたいと考えています。以上です。

○今井委員 にぎわいを持たせるということで、いろいろ県でされていることはわかりますし、楽しみにしておられるということもわかるのですが、芝にできるだけ影響を与えない形でぜひ検討していただきたいということをお願いしておきたいと思います。

それから、民泊が始まったということですが、奈良県の届出が今どのような状況になっているかお尋ねしたいと思います。けさも、詐欺グループが民泊を拠点に詐欺を行って捕まったというニュースもありましたし、奈良の民泊に滞在していた外国人が殺人事件を起こしたということも記憶に新しいところだと思いますが、こうした不法民泊の取り締まりの状況はどのようになっているのかもお尋ねしたいと思います。

○岡本インバウンド・宿泊戦略室長 本日開始されました民泊の制度については、全国で先週の時点で届出が2,707件提出され、そのうち1,134件が受理されたという状況です。一方、県内では、きのう現在、24件の届出があり、そのうち18件が受理手続きが完了となっています。これは奈良市も含めてです。きょうが始まりなのですけれども、これまでの間も相談件数はかなりありますので、今後、奈良県内でも届出はふえていくものと考えています。

その次に、違法民泊についてですけれども、法施行の直前で少し情勢が動きました。違法民泊に対する国の関係省庁の会議において、適正な届出がない状態で営業を続けて、指導してもなお営業しているものについては、県から警察に情報提供し、警察の取り締まりを求めてほしい旨が通知されたという大きな1点がありました。

もう一つは、観光庁が仲介業者に対して、未届け施設の予約を取り消すことを推奨する旨の通知を出されたことに仲介業者が呼応され、簡易宿舍の許可や民泊の届出が確認されていない施設については一挙にサイトから削除されることになって、報道等でもご存じかと思いますが、かなりたくさんの方の民泊がサイトから消去された状態です。違法状態となる可能性のある物件が情報サイトから消えましたので、一旦淘汰された状態からのスタートになったと思います。

このような中で、本日から制度が始まったわけですけれども、個々の事象を、県や保健所で拾い上げていくには限界がありますので、市町村や近隣の住民の方からの情報提供をこれからいただいていく形になると考えています。そこで、県では、情報提供や問い合わせの窓口を当室や保健所に置いているのですけれども、これを市町村にも周知したところでは、無許可の営業者、いわゆる闇民泊に対する罰金が改正旅館業法で引き上げられたことと、県にも立ち入り権限が付与されたということもありますので、周辺の方から無届けの疑いがある物件や、ごみ、騒音等の苦情があれば情報提供していただき、確認の上、指導を始めたいと考えています。以上です。

○今井委員 ニュースを見ていたら出てきたのが、フランスでは、昨年1年間で800軒のホテルが廃業になったということです。過去20年で最多の数で、民泊の人气が高まってホテルの利用者が減少したというのがその理由ということです。ある四つ星ホテルでは、5,000万円かけて競争に勝とうということで改修をされたのですけれども、お客さんが戻らず廃業に追い込まれたと。今何とかやっているところでも従業員を解雇せざるを得ないというホテルも出てきており、ホテル業界が大変困難な状態に追い込まれているとい

うことがあります。

800軒といいましたら、大体毎日1軒から2軒のホテルが潰れているということで、もともと民泊のスタートは宿泊施設を補うということでフランスでもスタートをしているのですけれども、逆に宿泊施設を食い潰すという問題につながっています。ホテル業者だけがそういう大変な思いになっているかといいましたら、今度はアパートなどの所有者が余計利益が上がる民泊の営業に物件を貸すようになったと。パリの家賃は高いということですが、これがさらに急上昇していったら、契約を更新するときに大体4分の1が契約更新をされていないと。そのため、そこに住んでいた人は住む場所を失って、もっと高い物件を探さなければいけない、郊外に行かなければいけない、そして観光客が多い地域では、住民が減ってしまっただけで学校が閉鎖される状態も生まれているということです。

また、住民は、高い家賃を払うために、自分たちが使っている部屋の数を節約して減らして、あいた部屋を利用して民泊で稼がなければならないという悪循環も生まれているということで、あいている部屋を貸すのではなくて、生活の場を犠牲にして稼がざるを得ないという本末転倒の状況が起きているのが今のフランスの現状のようです。きょうから民泊が始まったということですが、そのあたりのところをよく見ながらいかないと、同じ誤りを繰り返してはいけないということを感じています。

今、ホテルについては、王寺駅前にホテルという話もありますし、桜井市や葛城市・尺土駅前などいろいろ話を聞いているのですけれども、実際ホテルの計画というのは奈良県でどのような状況になっているのかお尋ねします。

○岡本インバウンド・宿泊戦略室長 ホテル建設についてですが、近年、県内での整備が活発になっていると認識をしています。具体的には、県が主導して進めております大宮通りのホテル、奈良公園での施設整備に加えて、桜井市、斑鳩町、明日香村、今井委員お述べの王寺町など、市町村が主導されて行われているもの、また、旧奈良少年刑務所を活用した整備、純粋な民間主導による新設・リニューアルなどが進められている状況であると認識しています。以上です。

○今井委員 ホテルと民泊がうまく共栄共存ができる進め方を、実態もよくつかみながら進めていっていただきたいということをお願いしておきたいと思います。

最後に、馬見丘陵公園のことで質問したいと思いますが、今、馬見丘陵公園は、一年中いつ行っても花が咲いている非常にいい公園になってきました。今も馬見花菖蒲まつりが開かれており、私も2日ほど前に行ったのですけれども、平日でもたくさんの方が訪れて

いるという公園になっています。なぜこの公園ができたかということ、後世の人に伝える必要があるのではないかということ、最近よく考えているわけですが、県が馬見丘陵公園のできた経過、歴史的なところをどれくらい把握されているのか気になっているのですが、そのあたりのことがわかりましたらお聞かせいただきたいと思います。

○佐竹公園緑地課長 馬見丘陵公園は、昭和59年8月に、当時、馬見丘陵公園の古墳群の保全と活用というところで広域的なレクリエーションの需要に対応することを目的として都市計画決定され、同年に事業着手して現在に至っているという状況です。以上です。

○今井委員 今言っていたことですが、その前から馬見丘陵公園というのは、その近隣にたくさんの古墳群という形で残されており、巢山古墳や牧野古墳、新木山古墳、乙女山古墳等の著名な古墳があつて、全国でも非常に有名な古墳のある地域です。地元のそういう古墳など古文化の愛好の人たちが、古墳めぐりや自分たちのまちの歴史など、ずっとそういうことをやっているときに、ナガレ山古墳が土取りということで4分の1ぐらい破壊されたということが起きています。このとき、ナガレ山古墳を守らなければいけないということで、地元の皆さんが保存運動を始めていったときに、真美ヶ丘ニュータウンが住宅都市整備公団の計画で300ヘクタールの広さのところ、1万戸の住宅、4万人の人口の大きなニュータウンをつくろうという計画が出てきて、そのときに、ほとんどの古墳が潰されていくということがわかり、やはりこれを守らなければいけないという取り組みが進んできたと聞いています。

1969年9月に馬見古墳群の保存について訴えますという文書も出ており、馬見丘陵古墳の全体的な保存計画を早急につくって、全域の国費の買い上げを行うことや、調査は破壊を前提としたものではなくて全体的な保存計画に合ったものにする、調査に当たっては、弥生遺跡やその他の遺跡の発見も十分予想されるので、十分な学問的な調査を保障することということで、国にも6,000筆ほどの署名を届けたという経過があります。そういう地元の皆さんの努力の中で今回こういうすばらしい公園として残ってきているという、その歴史をやはり何かの形で残してほしい、残していきたいということを非常に思っています。県でも、いろいろ調べていただいたらそういう資料などもあると思いますので、その辺のいきさつなども、ぜひ経過をまとめていただいて後世に残していただきたいというのは、私の強い願いであり、要望ですが、思っているところです。

ずっと広陵古文化会を中心に担ってきていただいた方がお亡くなりになりまして、先日そのときの資料はどうなっているのかを尋ねに行きましたところ、ほとんど手つかず

のままで残っているとされていますので、そうしたところについても、どういう形がいいのかわからないですが、かけがえのないものだと思いますので、きちんと保存をして、そして分析をして歴史を残していただきたいと思っていますが、何かその点でお考えがあったらお尋ねしたいと思います。

○佐竹公園緑地課長 今のお話ですが、そういった経緯までは把握していませんでした。今井委員お述べのように、そういう資料をお持ちということであれば、一度ぜひご紹介いただけましたら確認をしたいと考えています。以上です。

○今井委員 ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

○中川委員 私からも1点質問があるのですが、その前に、新しく着任されました折原観光局長から所感を伺いたいと思います。

国からいらっしゃって、今回4月に観光局長という立場になられて2カ月がたちました。改めてお感じになったこと、考えていることがあるかと思ひますので、もしありましたら、ないということはないと思うのですけれども、よろしくお願ひします。

○折原観光局長 まず私の認識から申し上げたいと思ひます。本県は、御多分に漏れず人口が減って高齢化が進んでいる状況にあるわけですし、さらに、本県が過去ベッドタウンとして発展してきたことを踏まえれば、さらに今後、急速に人口減少と高齢化が進んでいくだろうと認識しています。そういった成長の制約要因を乗り越えるためには、生産性の向上と、あと、もう一つ、交流人口を拡大していくことが非常に重要になってくるのだろうと考えています。交流人口の拡大を考えますと、観光というものは、非常に大きな役割を果たすと考えていまして、本県の今の観光の抱える課題を見れば、宿泊客が少ない、それで観光消費額も非常に低いということになっていますので、ここをどう取り組んでいくのかということが非常に重要だと考えています。

これについては、1つは、奈良県の観光地としての魅力づくりに取り組んでいく。具体的に申し上げますと、今、絶対的に宿泊施設が少ない、客室が少ないという現状がありますので、宿泊施設の量に取り組んでいく、あるいは上質な宿泊施設にもあわせて取り組んでいく必要があるだろうと考えています。こういったことで滞在できるような環境を整える、あるいは滞在観光ということで県内をめぐっていただくために、やはり交通体系をどういうふうにするのかということも非常に重要になると考えています。

また、奈良県の持つ豊富な観光資源や歴史文化資源はまだ潜在的に非常に魅力的なものがあると考えていますので、こういったものを活用して魅力的な観光地づくりに取り

組んでいくことが柱の一つであろうと考えています。他方で、奈良へ人を呼び込んでいくという誘客の流れをつくり出していく、プロモーションを国内外に重点的に取り組んでいく必要があるということを考えています。ことしで申し上げれば、7月からフランス・パリで日仏両政府の主催のもとでジャポニスムという大規模な文化紹介行事が開かれます。これに奈良県も積極的にコミットして取り組んでいくことにしていますので、こういったことを中心に海外や首都圏の誘客に取り組んでいくことがもう一つの柱になると思います。

また、そういったものを支える観光政策の土台づくりということで、データ、エビデンスに基づく政策を打っていく必要があるだろうということで、データというものをどのように整備して活用していくかということ、あるいはそういった観光政策を支える人材をどのように育てていくかということ、また、財源をどのように確保していくかということに総合的に戦略的にパッケージとして取り組んでいく必要があると考えていますので、こういったことで私もできる限り精いっぱい取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

○中川委員 非常に大きな視野で観光局の仕事を捉えられていることはよくわかりました。質問としては何かぬるいと思われるかもしれませんが、一緒に知恵を出していけたらと思っていますので、よろしくお願いいたします。

改めて質問ですけれども、平城宮跡歴史公園についてです。

無事オープンをしまして、そのにぎわいも徐々に高まっていると私も見に行っていて感じています。あさってには、奈良青年会議所、奈良J Cが、まほろばざーというイベントを同所で行いますし、また、奈良商工会議所青年部の方が毎年やっている、なら奈良まつりもまた同所に戻ってくると聞いています。

ただ、駐車場の問題について引き続き懸念をしているところです。駐車場が何百台も置けた状態から40数台しか置けない状態にまでなってしまうという、計画段階で今年の9月議会で私も質問をしました。現状を見に行きますと、夕方以降などは簡単にとめられるのですが、日中、正午あたりの時間帯などでは平日であってもなかなかとめることができない。あふれてしまって警備の方が入り口で、もういっぱいなんです、ごめんなさいと説明をされている状況でした。先日もそのように一般質問したのですが、その後、どのように検討などが進んでいるのか、お聞かせいただければと思います。

○松岡平城宮跡事業推進室長 朱雀門ひろばの駐車場についてのお尋ねです。

この3月にオープンしました朱雀門ひろばには、交通ターミナルとして、一般車両42

台、大型バス20台分の駐車区画を設けています。これは拠点ゾーンとしての整備計画を立てた際に、パブリックコメントを経て、当初の計画にはなかった駐車場を設けるべきという意見を受けて、多様な機能を限られた敷地の中で実現するために何とかやりくりをして生み出した台数、場所です。そもそも平城宮跡は特別史跡であるということから、臨時的、一時的なものであれ駐車場を設けるということが非常に困難です。そのため、従来からにぎわいづくりのためにさまざまなイベントを開催するに当たっては、会場へのシャトルバスや、ぐるっとバスを用意した上で公共交通機関でご来場いただくよう広報に努めてきたところです。その成果として、これまで一定のご理解をいただいているものと考えています。

朱雀門ひろばの開園後についても、同様の広報は継続して続けています。幸い開園以来これまでのところ、大きな混乱は生じていないと承知しておりますが、しかしながら、土日・祝日や大規模なイベントの開催時には、中川委員がおっしゃるように交通ターミナルが満車になり、来場された方々にご不便をかけたり、周囲の方にご迷惑をかけるおそれがあります。それに備える意味でも、平城宮跡内の他の無料駐車場、例えば遺構展示館や東院庭園、奈良文化財研究所の平城宮跡資料館等に合わせて180台程度の無料駐車場があり、そういったところへのご案内や、さらには、少し距離もありますけれども、周辺の民間の有料駐車場等をご案内することで、大宮通りに渋滞が発生したり、入場を長らくお待たせすることのないように努めています。

なお、こうした駐車場のご案内については、より一層スムーズに行えるように、また、わかりやすくなるように指定管理者と協議して、案内のためのチラシを作成することを検討しておりまして、完成次第それを積極的に活用していきたいと考えています。今後も、引き続き駐車場等で混乱の発生することがないように対応していきます。以上です。

○中川委員 まだまだ開園したばかりですので、今後の状況なども見ていきたいと思っています。ご答弁いただいたように、いろいろな取り組みが進んでいるところかと思えます。こちらでも状況を見ながら、また相談させていただこうかと思えますので、よろしく願います。以上です。

○田尻委員 私から質問をさせていただきます。

奈良大立山まつりについてです。ここ数年、奈良大立山まつりを右往左往しながら新たな企画ということで取り組まれてきました。大雨のときもあれば、極寒のときもありました。また、足元が暗かったり、寒かったり等、いろいろなことを経て、今新たな形で奈良

大立山まつりをしていこうという思いも含めて先ほど折原観光局長から説明をいただいたところですが、そこでお伺いをします。

大立山まつり実行委員会の会長は荒井奈良県知事でしたが、今回会長職について、委員の中から互選により選出されるとなっています。この大立山まつり実行委員会のメンバーは、ある意味ではメディアを含めてそうそうたる皆さん方が集まっておられるのですが、この中でどのような形で決められるのですか。こういう方ばかりで決められるのですか。

次に、新たに委員の方をふやされたということですが、あまりにも少人数であるということと、同じふやすならどうして各分野あるいは各地域など、そういうことの配慮がなかったのかどうか、その辺についてはどのように考えているのか、お伺いしたいと思います。

○福井ならの観光力向上課長 奈良大立山まつりの実行委員会の委員の関係です。

まず、現在の委員の人選については、平成27年度9月議会で補正予算をお願いして、非常に厳しいタイトなスケジュールの中で第1回の実行委員会を開催したという経緯があります。その際に、実効性のある委員会にすることから、実行力のある関係者の協力が不可欠という認識のもと、観光局に事務局を設置して、その中で構成委員の案を作成し、ご協力をお願いして決定したところです。

具体的な人選については、例えば、なら燈花会やなら瑠璃絵の実行委員会のメンバーの構成等を参考にしながら、商工関係者、開催地であります奈良、また、立山を有する地元関係者、広報等のためのマスコミ関係者、観光客の移動という意味での公共交通事業者、それを旅行商品として造成していただく企業、宿泊関係者という方に委員になっていただいたということです。非常に実効性のある能力の高い方々に委員になっていただいて、実行委員会の中でいろいろ議論を交わしていただきながら、よりよいものになるように第1回から第3回と工夫をしながら進めてきたところです。

今回、奈良大立山まつりをより発展させたいという意欲のある民間の委員お二人に新たに加わっていただいたところです。先ほど折原観光局長から説明がありましたけれども、平城宮跡の隣接で海龍王寺のご住職です。平城宮跡への知識、造詣が非常に深いと考えており、また、平井氏は、なら瑠璃絵実行委員会の前会長で、こういうイベントについて非常にノウハウを持っておられるということです。今回、委員についてはこの二人ですが、この二人以外にも事務局に民間の方に数名ほど入っていただき、いろいろ意見を交わしながら、今後の取り組みについて検討を進めているところです。

今までは知事が会長ということが会則でうたわれていましたが、今年度に行います第1

回の実行委員会の中では、それを見直して、委員の互選という形に変えようということ考えています。今後、一遍にはありませんが、徐々に民間の委員や各地域の委員といった方に加わっていただけるように考えているところです。以上です。

○田尻委員 私の認識の中では、実行委員会というのは、実際にいろいろな事業を行うのですが、いろいろな企画や仕掛けなどをして、たくさんの皆さん方に来ていただくための、ある意味では、今、県当局がされている事務局的な意味も含めてやるべきだと考えています。メディアも含めてですけれども、実行委員の皆さん方は私から見ると、直接この事業と利害関係が発生するわけで、要するにビジネスとなっていくわけです。そうすると、実行委員会の皆さん方が、例えば、もっと広告を出しましょう、もっといろいろなことをしましょうといっても、自分のところに仕事をください、もっと仕事をふやしてくださいととられかねないと、私はそういう懸念をしている。裏を返せば、意見が言えなくなる立場になるのではないかと思っています。

こういう立派な皆さん方はやはり分けて、協賛、あるいは間隔を置いて評議員として、実行委員は、本当にお客を入れ込んでいただける、本当に仕掛けができるメンバーでつくるべきだと考えているのです。何を言いたいかというと、過去にこの委員会でも申し上げたことがあります。例えば、東向商店街、もちいどの商店街も三条通り商店街、小西さくら通り商店街など、いろいろな商店街の皆さん方にお話を聞くと、奈良大立山まつりは平城宮跡でやっている事業で、我々には関係もないし、お客もふえないし、だから向こうは向こうで頑張られたらいいのではないですかと、割と冷静というか、さめておられるので、それではもったいないというのが私の意見です。

だから、例えばそういう皆さんにも意見を聞く、あるいは皆さん方をお願いして、奈良大立山まつりに皆さん行かれたことはありますか、まちで食事、あるいは店で食事しても、このポスターが張ってあるところはない、どこの商店街も一軒もない。何をしているのかと思っているのです。これだけ知事が言って議会で大概のいろいろなことがあって、足元から何もしていない。それだったら昼は例えば奈良公園、夜は奈良大立山まつりと、こういう連動性の仕掛けはないのかと思っているのです。だから、こういう立派な人がなれば、どうしても実行委員会は、皆さん方が考えているその案を承認するしかないと言っているのです。それでは意見にならないのではないかということをお願いしたいと思います。

それから、会長はもっとオープンにしたらいいと思います。1つの提案ですけれども、立候補制にして、一回、所信表明ではないけれども、私が会長になりたいということで、

立候補制ではっきりしたらいい。そうでなかったら、本当になかなか決められないぐらいのメンバーです。だから、ここはせつかく平城宮跡で、これから新たなスタートを切っていただくという意味では、ぐっと力を入れて、真剣に取り組んでおられるのでしょうかけれども、同じ角度から多くの人が同じところばかりを見ないで、違う角度から見るといった感覚が欲しいと思うのです。

そういう意味では、新たに折原観光局長が就任されましたので、今までの公共交通のプロから今度は観光局という立場の中で、折原観光局長の考え、奈良大立山まつりにかける思いを伺いたい。

○折原観光局長 田尻委員の非常に示唆に富んだご意見ありがとうございます。奈良大立山まつりは、過去3回やってきた中でさまざまな課題があって、その課題を一つ一つ解決しながら、よりいいものにしていきたいと考えていまして、今いただいたご意見も踏まえて、今後さらに見直しということについて実行委員会の中で考えていきたいと思えます。

現時点ということで申し上げますと、本日説明しましたとおり、今までのある意味、行政主導の形から民間主導という形に体制を切りかえていくことで、民間の方々の知恵と工夫を取り込んで、イベント自体をよりいいものにしていくということ、あるいは会場を今回新しくできた朱雀門ひろばの既存施設を使うことによってコストを削減していく、あるいは既存施設との連携をとって低温対策や既存コンテンツを楽しんでいただくといったこと、また、これまでの開催期間、開催時間ということに対しても、来場客数の状況なども踏まえて見直していくことなど、さまざまな工夫の余地があると思っていますので、そういったことについて一つ一つ丁寧に、委員の方々のご意見も踏まえて考えていきたいと思っています。以上です。

○田尻委員 例えば、JRと近鉄の駅から奈良大立山まつりの会場までバスの運行があります。これはいいと思うのですが、大和西大寺駅から平城宮跡まで歩けないこともないので、一回違うサイドから、例えば近鉄奈良駅から出して、夕方になればバスで直接向こうへ行ってくださいというのも、一つの策ではないかと考えてもいます。

ことし平城宮跡の奈良大立山まつりから若草山の山焼きを見ましたけれども、木と煙でほとんどわかりませんでした。一緒に見ている人が楽しみに見ていたら、火がついたのかついていないのかという感じで、ついたと思ったら煙と木で見えないと。あまりにもロケーションが小さい。それから見ると、山焼きの後は奈良大立山まつりとか、何か運動性にしたほうがいいのではないかとということも実体験として、実際見てきた私どもとしてはそ

ういう感じがあります。やはりもう少しいい意味でどちらも反映するように、そのような仕掛けが必要ではないかと思っています。

当然県議会では皆さん方のいろいろな意見も大変多く出るところですけれども、あれだけ立派な施設もできた、これから幾ら投資費用が少なくなったといっても、やはり巨額の税が入るわけですから、よりよいものであり続けていかななくてはならないと思っています。その点を深めて、今日より次、そして人がたくさん来ていただけるように、昼から夜へ連動して夜から宿泊へという仕掛けが必要かと思っています。一気にすぐにこうだあだとこの席で私が申し上げても、それに答えるのも難しいとは思いますが、こういう意見もある、こういう考えもあるということも十分知っていただきながら、できる限り実のあるものに、よりよいものという思いも含めてぜひお願いしたいと思っています。

既に朝日新聞で見られたと思いますが、西の魅力にうっとりということで、旅行の口コミサイトでトップ30に、うれしい話ですけれども、奈良県も東大寺などいろいろと入れていただいていることは大変ありがたいことです。また、奈良公園の魅力も含めて、そういう意味においては関西は頑張っていると思います。奈良も頑張っていかななくてはならないし、頑張っているということで、よりよい魅力があるとそのまま言い続けていただいて、これから力を入れていけますけれども、桜井や橿原や明日香、あるいは吉野へと連動していくことも含めてよりよい奈良をつくっていただくように、そんな思いを含めて質問をしましたので、これからはともによりよい奈良をつくるためにご尽力をいただきたいと思っています。

○和田委員長 ほかにございますか。

なければ、これで質問を終わりたいと思います。

一言ご挨拶申し上げます。

当委員会は、引き続き調査並びに審査を行ってまいりますが、特別委員会の設置等に関する申し合わせにより、正副委員長の任期は1年となっております。特別な事情がない限り、本日の委員会をもって最終になると思います。

昨年7月の委員会設置以来、委員各位には、当委員会所管事項であります観光力の向上に関することにつきまして、終始熱心にご審議いただきました。

また、理事者におかれましても、種々の問題について積極的な取り組みをしていただきました。

おかげをもちまして、無事任務を果たすことができましたことを委員各位及び理事者の

皆さんに深く感謝を申し上げ、簡単ではございますが、正副委員長のお礼の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

それでは、理事者の方はご退室願います。ご苦勞さまでございました。

委員の方はお残り願います。

(理事者退席)

それでは、ただいまから本日の委員会を受けまして、委員間討議を行いたいと思います。委員間討議もインターネット中継を行っておりますので、マイクを使ってご発言願います。

6月定例会閉会日に行う当委員会の中間報告案と、参考に、これまでの委員会で各委員からいただいた意見等を整理しましたその資料をお手元に配付いたしております。

中間報告案について、各委員の皆様には事前にご一読をいただいておりますが、ご意見等がございましたらお願いをいたします。どうでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

それでは、ありがとうございます。

この中間報告についてですが、正副委員長に一任願えますか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

ありがとうございます。それでは、そのようにさせていただきます。

それでは、これもちまして本日の委員会を終わりたいと思います。